

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																		
新潟デザイン専門学校	昭和51年4月1日	加藤 一人	〒 950-00932 (住所) 新潟県新潟市中央区長潟2-1-4 (電話) 025-287-3383																		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																		
学校法人 国際総合学園	平成7年3月24日	池田 祥護	〒 950-8063 (住所) 新潟県新潟市中央区古町通二番町541番地 (電話) 025-210-8565																		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																
文化・教養	文化・教養専門課程	デジタルデザイン科	平成23(2011)年度	-	平成29(2017)年度																
学科の目的	デザイン・映像・IT業界にかかわる職業人として、デジタルコンテンツ制作・ムービー制作作業、インターネット付随サービス業・商業デザイン(グラフィックデザイン)業等、様々な分野に関わる技術等について、専門的な知識・能力を身に付け、その知識に基づく実習を通して実務に関する実践的な技術・技能を身に付けることを目的とする。デザイン・クリエイティブ業界の多くの企業や団体と連携し即戦力となる人材育成を行い、また、多くのデザイナー・クリエイターの育成により業界の発展に寄与することを目的とする。																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	令和6年度実績 ・資格取得:コミュニケーション検定(84.6%:13名中11名)、色彩士検定(91.7%:12名中11名)、ビジネス著作権検定(50%:2名中1名) ・退学者:2名(在学数11名中) ・コンテスト受賞:新潟市美術展(彫刻部門)市長賞、亜細亜アート展 クサカバ賞、ターナーアワード 専門学校優秀賞 等																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技														
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,964 単位時間 単位	187 単位時間 単位	0 単位時間 単位	2,777 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位													
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)																		
45 人	42 人	0 人	0 %																		
就職等の状況	■卒業者数(C) : 12 人 ■就職希望者数(D) : 8 人 ■就職者数(E) : 8 人 ■地元就職者数(F) : 7 人 ■就職率(E/D) : 67 % ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 88 % ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 67 % ■進学者数 : 1 人 ■その他 : (令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 株式会社Gugenka、株式会社シانس 他																				
	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体 : 受審年月 : 評価結果を掲載したホームページURL																				
	当該学科のホームページURL https://ncadnet.jp/department/ac.html																				
	(A: 単位時間による算定) <table border="1"> <tr> <td>総授業時数</td> <td>2,964 単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td> <td>176 単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td> <td>0 単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち必修授業時数</td> <td>2,964 単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td> <td>176 単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td> <td>0 単位時間</td> </tr> <tr> <td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td> <td>0 単位時間</td> </tr> </table>							総授業時数	2,964 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	176 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	2,964 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	176 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間
	総授業時数	2,964 単位時間																			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	176 単位時間																			
	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																			
	うち必修授業時数	2,964 単位時間																			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	176 単位時間																			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																				
(B: 単位数による算定) <table border="1"> <tr> <td>総授業時数</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>うち必修授業時数</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td> <td>単位</td> </tr> </table>							総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位	
総授業時数	単位																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																				
うち必修授業時数	単位																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)																					
教員の属性(専任教員について記入) <table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>9 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11 人</td> </tr> </table>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	9 人	計	11 人			
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2 人																				
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人																				
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																				
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																				
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	9 人																				
計	11 人																				
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 11 人																					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

アートの分野でも、デザインに関する基本的な技術・知識を基に、最新の多様な変化に対応できる知識技術が求められている。また、地域活性の要素としてアート活動が近年注目されており、県内及び県外の企業・就職やインターンシップ先等の各企業等と連携し、現在業界の求めている人材像やスキル等の動向を把握・分析し、専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目、授業内容の改善工夫などを行うために教育課程編成委員会を設け、教育内容の質の向上に継続的に務める。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

印刷、デザイン、広告、イベント業界等の主催するセミナーや、各学会等で研究される「業界で求められる人材像やスキル」を基に、学科長と学科担当教員が授業科目や内容の原案を制作し、教育課程編成委員会に提出し意見を求める。教育課程編成委員会の意見について再度検討し、学校長、各科学科長、就職進路相談担当者からなる学校運営会議に案を提出し決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
高田 哲雄	一般社団法人 亜細亜美術協会 理事長	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	②
新保 悟	ジャムルクルー株式会社	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	③
渡辺 淳一郎	株式会社アイディ・東和 取締役営業部長	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	③
斉藤 秀一	NPO法人アジアクラフトリンク	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	③
白井 剛暁	株式会社デザインデザイン 代表	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	③
浅野 勝利	株式会社Too	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	③
澁谷 敏	シブヤカメラ	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	③
落合 剛之	株式会社TAMBO 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	③
加藤 一人	新潟デザイン専門学校 校長	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	—
畑野 裕美	新潟デザイン専門学校 副校長	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	—
宝福 大志	新潟デザイン専門学校 教務部長	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	—
永井 啓司	新潟デザイン専門学校 進路相談室室長	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	—
羽田 裕之	新潟デザイン専門学校 学科長	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	—
笠原 雅人	新潟デザイン専門学校 学科長	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	—
加納 洋太	新潟デザイン専門学校 学科長	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	—
藤田 美結	新潟デザイン専門学校 学科長	令和7年4月1日～ 令和10年3月31日(3年)	—
長谷川 友也	新潟デザイン専門学校 学科長	令和7年4月1日～ 令和10年3月31日(3年)	—
北川 菜智	新潟デザイン専門学校 事務局長	令和7年4月1日～ 令和10年3月31日(3年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年3月13日 16:00～18:00

第2回 令和7年8月21日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

、教育課程編成委員会や連携企業等の意見を活用して、実社会におけるチーム力の重要性についてや、ビジネスマナーを意識した挨拶や振る舞いが身に付くような指導内容として加える改善をした。特に企業との連携時にグループ内での役割分担やその目的を重視し、企業でのチームワークを意識した制作体制の経験をできるようにした。就職授業や就職研修時だけでなく、実習授業時の指導として加えることでより実践的な指導となった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

プロの表現者としての心構えや、基礎知識の習得と社会形成の一部を担う為の要素・手法を実践を通して学ぶ。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

表現をプロとして世間に発表する事についてを学び、2年次は更に発表するだけでなく、自らの企画と企業との連携方法を学ぶ。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
制作実習	産学連携プロジェクトを通してオリジナルデザインの制作を実施。業界での制作工程や制作計画に合わせ制作できる力やディレクション力も身に付ける。	新潟市民芸術文化会館
デジタルデザインⅢ	複数のソフトやフォーマットの互換性を活用したクオリティを高めた作品制作を行い、幅広いデジタルコンテンツの表現力を習得する。	新潟県中小企業青年中央会

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技術を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身に付けなければならない。職員の教育・研修に関する細則(諸規定)に定められている通り、計画的に実施する。

- ・教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識
- ・スキル研修・県などの公共事業によりセミナー等への参加。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	インストラクショナルデザイン研修	連携企業等:	一般社団法人 全国専門学校教育研究会
期間:	令和6年3月12日(火)	対象:	専修学校で教育に携わる職員
内容	教員の役割とスキル、資質を学び、模擬授業とフィードバック、アクションプラン作成により業務に活かす。		

研修名:	ChatGPTの実践応用研修	連携企業等:	株式会社dott
期間:	令和6年12月6日(金)	対象:	教育者向け
内容	NFTアートにおけるビジネス展開と、地方から発信することの可能性について学びを深める。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	学生指導研修(フォローアップ研修)基本編	連携企業等:	日本産業カウンセラー協会
期間:	令和6年8月6日(火)	対象:	専修学校で教育に携わる職員
内容	学生指導で直面している課題共有、参加者の経験や視点からのアドバイスなどディスカッション形式で行う。		

研修名:	ハラスメント防止研修	連携企業等:	よつばワーク社会保険労務士法人
期間:	令和6年7月18日(木)	対象:	教育者向け
内容	ハラスメントの種類と具体的事例、パワハラに対する理解と知識を深め、日常業務や職員育成に活かす。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「Microsoftソリューション×生成AI」研修①	連携企業等:	日本マイクロソフト株式会社
期間:	令和7年10月29日(水)	対象:	専修学校で教育に携わる職員
内容	Microsoft 365とCopilotを組み合わせた具体的な活用例を学び、注意点やルールの重要性を理解する。		
研修名:	「Microsoftソリューション×生成AI」研修②	連携企業等:	日本マイクロソフト株式会社
期間:	令和7年10月29日(水)	対象:	専修学校で教育に携わる職員
内容	生成AIを活用する意義を理解し、実際に操作を体験し、「明日から試せる」スキルを身につける。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	スポーツハラスメント研修	連携企業等:	レイ法律事務所
期間:	令和7年8月1日(金)	対象:	専修学校で教育に携わる職員
内容	スポーツ指導の現場で起きるハラスメントの防止に向け、「スポーツハラスメント」をテーマに実施。		
研修名:	学生指導研修(フォローアップ研修)応用編	連携企業等:	日本産業カウンセラー協会
期間:	令和8年8月6日(水)	対象:	専修学校で教育に携わる職員
内容	学生指導で直面している課題共有、参加者の経験や視点からのアドバイスなどディスカッション形式で行う。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

・評価活動を通じたコミュニケーションにより、外部の学校関係者と学校がお互いに理解を深める学校関係者評価の重要な目的は、評価という協同作業を通して、学校と学校に関係する方々が、お互いに理解を深めることである。委員の方々が評価活動に参加することで、普段は目にする事のない教職員の業務や取り組みを知ることができる。また学校は、学校を取り巻く人々からどのように見られているかを知ることによって、普段の教育活動を振り返るきっかけができる。

・学校の自己評価の客観性・透明性を高める。学校評価の基本は学校の自己評価である。学校は自身の教育活動を振り返って成果や課題を分析し、それに基づいて改善案を検討する。その自己評価が、外部の学校に関係する方々の目から見ても違和感なく受け入れられるかについて意見をいただき、自己評価の客観性・透明性を高めていく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念、目的、育成人材像は、特色・将来構想など学生・保護者に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
(2) 学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
(4) 学修成果	・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策が取られているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	現在、海外教育提携校と積極的な交流を実施している(短期留学等)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ①実践的な課題として取り組んでいるコンテストが学生自身の自信にもなり、また校外での評価を受ける事にもつながるので、継続を期待する意見があった。産学連携や企業プロジェクトの作品成果の発表、新規コンテストへの参加など、実践的に取り組んでいる。
- ②スクールカウンセラー制度については、これまで同様に希望者が無料でカウンセリングを受けれる制度の継続、オンラインでの実施が可能か否かの検討など意見があった。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
関本 大輔	株式会社アドハウス・パブリック	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	企業等委員
伊藤 慎一	アイプラス	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	卒業生
竹田 一紀	作家	令和6年4月1日～ 令和9年3月31日(3年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: :http://www.ncadnet.jp/

公表時期: 45229

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では、文部科学省生涯学習政策局が平成25年に発表した「専修学校における学校評価ガイドライン」等の趣旨及び取組に当たっての視点、情報提供の内容・方法に則り、本校のホームページ上で一般に公開する。また、連携協力する企業等の学校関係者に対しても、委員会で情報を提供し学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会等の委員にも、本校の教育活動や学校運営の理解や適確なアドバイスを頂き、改善に役立てるものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史 ・その他の諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数 ・カリキュラム(科目配当表;科目編成・授業時数)、時間割、使用する教材 ・など授業方法及び内容、年間の授業計画) ・進級・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等) ・学習の成果として合格を目指す検定等 ・検定試験合格の実績、コンテスト受賞の実績等 ・卒業者数、卒業後の進路(進学者数・おもな進学先、就職者数・主な就職先)
(3)教職員	・教職員数(職名別) ・教職員の組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み状況 ・実習、実技等の取り組み情報 ・企業等との連携による具体的な取り組み情報 ・就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取り組み状況 ・課外活動(ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	・学校行事への取り組み状況 ・生活上の諸問題(中途退学、心身の健康等)の状況及びそれに対する学校の対処や指導状況
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取扱い(金額、納入時期等) ・活用できる経済的支援処置の内容等(奨学金、授業料免除等の案内等)
(8)学校の財務	・事業報告書、貸借対照表、収支計算書、監査報告書 等
(9)学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	・留学生の受け入れ、派遣状況 ・外国の学校等との交流状況
(11)その他	・学則 ・学校運営の状況に関するその他の情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: www.ncadnet.jp/

公表時期: 45869

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程デジタルデザイン科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			マルチメディアリテラシー	3次元CGや映像制作の具体的な手法に加え、色の特性・写真撮影・デジタルデータの基礎・著作権財産権など、制作において必要となる関連知識について学ぶ。	1・前	22		○			○		○		
2	○			DTP概論Ⅰ	DTPについて、制作の為の知識と技術を、現場サイドの工程で習得する。PCから印刷への処理について知識の習得を図る。DTPとデザイン業界のかかわりについて学ぶ。	1・後	22		○			○			○	
3	○			コミュニケーション講座	コミュニケーションの重要性や役割等について学び、自己表現の仕方を習得するとともに、コミュニケーション検定の取得を目指す。	1・後	22		○			○		○		
4	○			フォントグラフィ	ロゴデザイン、マークデザイン、サイン、ピクトグラフィーなどに関するデザインの方法や、パソコンの文字(フォント)について知識と技術、デザイン制作をする。	1・前	44				○	○		○		
5	○			色彩構成	色がなぜ必要か。色は日常生活に密着し、文明の発達と共にどのように発展したかを考える。また、色彩の基礎と考え方や構成を学び作品制作につなげていく。色彩士検定の内容を含む。	1・通	44				○	○			○	
6	○			デジタルイラスト	手描きでカンブまで制作し、フィニッシュとしてMAC使用し、業界でのワークスタイルを習得する。 ドロー系アプリケーションの技術習得を徹底して行い2次元CGイラストレーションの制作技術・手法を修得する。	1・通	88				○	○		○		
7	○			DTPデザインⅠ	グラフィックデザインについて学び、DTPにおける知識・技術を習得すると共に、デザインを重視した作品制作を通し、企画から制作までを学習する。DTP課題等。	1・通	44				○	○		○		
8	○			フォトレタッチ	コンピュータを使用し写真の合成や加工・修正等のデジタル画像処理について技術や表現方法を学ぶ。デジタルコラージュや画面構成も行う。	1・後	22				○	○		○		
9	○			写真基礎	写真とは何かという所から、カメラの仕組み・フィルムの仕組み、現像の仕組みを学び、また、撮影方法を学び、スタジオ撮影や作品撮影を行う。画面構成やデジタルカメラについても学ぶ。	1・前	22				○	○		○		
10	○			デジタルデザインⅠ	Macintoshの基本から、2DCGの実践的な制作・操作方法まで応用できる技術を習得する。 表現方法の応用や手法をテーマに沿って行い、コンペ作品制作も行う。	1・通	88				○	○		○		

11	○		制作実習	時間管理を行い、デザインの制作を実施企業プロジェクト期間を活用し、業界での制作工程や制作計画に合わせ制作できる力やディレクション力も身に付ける。	1・通	88					○	○		○		
12	○		ベーシックデザイン	形・空間・色彩の構成法や平面構成など、デザインの基本について技術・知識を習得する。 リアルイラストレーション技法や面分割表現について制作を通し学ぶ。	1・通	88					○	○				○
13	○		コンピュータグラフィック	3DCGについての知識・技術の基本を学び、3DCGアプリケーションの基本操作を習得しながらモデリング・マテリアル・レンダリングの工程を学ぶ。	1・通	44					○	○		○		
14	○		ドローイング	鉛筆によるドローイング・淡彩画制作・着彩画・クロッキーやデッサン等の方法を学び、モノ造りの基本としてモノを見る力・発想する力を養い表現力を高める。	1・通	88					○	○				○
15	○		現代文章	広告や印刷物などデザイン制作する時にターゲットの心理を有効に活用する考え方や方法を、キャッチコピーの作り方や文章制作などを基に学ぶ。	1・後	22					○	○				○
16	○		修了制作	1学年に学んだ集大成として作品制作を行い、完成後はプレゼンテーションと講評会を実施する。	1・後	240					○	○		○		
17	○		コピー論	広告物の制作時には欠かせないコピーやキャッチコピーについて、意味や役割、また作り方・考え方を学ぶ。	2・後	22	○					○				○
18	○		著作権講座	著作権について学び、制作に活かす。 ビジネス著作権検定試験を受検。 検定対策も兼ねる。	2・前	22	○					○		○		
19	○		制作実習	産学連携プロジェクトを通してオリジナルデザインの制作を実施。業界での制作工程や制作計画に合わせ制作できる力やディレクション力も身に付ける。	2・通	66					○	○		○		○
20	○		異文化研究	隣国や訪問国を中心に海外の文化について学び、日本の文化を紹介する企画や準備・交流について学び実施する。	2・後	11					○	○		○		
21	○		ペーパークラフト	紙についての特徴を学び扱えるようになる。切梁の仕方等、丁寧な仕事の仕方、表現の仕方、ポップアップの仕掛けが制作できるようになる。	2・前	22					○	○				○
22	○		就職実務Ⅰ	社会人に必要とされるの一般常識マナーなどを学び、また電話対応や来客対応等もロールプレイングやグループワークを通し身に付ける。	2・通	33	○					○		○		
23	○		webデザインⅠ	webサイトの制作についてHTML言語からレイアウトデザイン、取材からコンテンツ制作など、実際の制作までを行う。 インターフェイスデザインについての基本を学ぶ。	2・前	22					○	○		○		
24	○		webデザインⅡ	webや映像のネット配信などの中心になっている動画の基本から応用までをマスターする。また、HPやオーサリングへの互換性・活用を学ぶ。	2・通	88					○	○				○
25	○		3DCGテクニック	3DCGについての応用の仕方を学び、3DCGアプリケーションの習得しながらオリジナル表現ができるよう技術を修得する。	2・後	66					○	○				○

26	○		デジタルデザインⅡ	オリジナルデザインの制作をコンテスト応募を通して実施。コンテストの内容を分析し、ターゲット・目的などを分析し、資料収集や取材からデザイン制作を行う。	2・通	44				○	○		○		
27	○		DTP デザインⅡ	クオーク及びInDesignの使用方法的習得、文字組み、画像加工、レイアウトなど、DTPスキルの応用を習得する。	2・通	44				○	○			○	
28	○		立体デザイン	造形用粘土を使った立体イラストレーション表現を学び、モチーフの捉え方や表現の仕方を習得する。	2・前	44				○	○			○	
29	○		テクニカルスケッチ	2次元・3次元CG制作に必要なパス・レンダリング等の知識及びテクニックを学ぶ空間を把握する力を養う。	2・通	88				○	○			○	
30	○		3Dムービーデザイン	アニメーションの仕組みからモーションデザインまで、2DCGアニメーション、3DCGアニメーション、デジタル効果、SFX表現等の制作を通して学ぶ。	2・通	88				○	○		○		
31	○		2D・3Dデザイン	2D3Dの応用を学び、幅広い表現力を習得する。複数のソフトやフォーマットの互換性を活用したクオリティを高めた作品制作をする。	2・通	88				○	○		○		
32	○		修了制作	1学年・2学年に学んだ集大成として作品制作を行い、完成後はプレゼンテーションと講評会を実施する。	2・後	240				○	○		○		
33	○		web デザインⅢ	webサイトの企画・デザイン・取材を行い実際の制作までを実施。コード入力について学び、サイトでコンテンツとして利用できるようにする。	3・通	44				○	○			○	
34	○		ペーパークラフトⅡ	紙の厚さと強度の関係等を知り、展開図の制作や組み立てができるようになる。制作を通して、重心やバランス、レイアウトを考える。	3・通	44				○	○			○	
35	○		キャラクターデザイン	目的に合わせたキャラクターの企画・提案・デザインまでの過程を学び、制作を行う。	3・後	44				○	○		○		
36	○		プランニング	仕事での企画からプレゼンまでの流れを学び、プレゼンテーションツールの制作のノウハウを学ぶ。パワーポイント系やプレゼンボードなど。	3・通	88				○	○		○		
37	○		デジタルデザインⅢ	複数のソフトやフォーマットの互換性を活用したクオリティを高めた作品制作を行い、幅広いデジタルコンテンツの表現力を習得する。	3・通	88				○	○		○		○
38	○		3DCGデザインテクニック	マイファバリットの企画・制作を通し、リアル3DCGのモデリングや表現・制作技法の実践、応用、追及を行う。	3・前	66				○	○		○		
39	○		制作実習	産学連携プロジェクトを通してオリジナルデザインの制作を実施。業界での制作工程や制作計画に合わせ制作できる力やディレクション力も身に付ける。	3・通	88				○	○		○		○
40	○		社会研究	企業研究を行い、就職活動を行う際のマナーや実際の就活・企業研修について実践する。各種書類の意味や提出方法も学ぶ。	3・後	22		○			○		○		
41	○		デッサン	デッサンやクロッキーを通して、モノの見方を追求する。デッサン力の追及を図る。	3・通	44				○	○			○	

42	○		DTP デザイン Ⅲ	DTP制作の応用。雑誌・広告・パッケージと実際にデザイナーが依頼された仕事を課題を通して体験する。就職向け実践的な内容になっている。	3・通	88				○	○		○		
43	○		コンテンツデザイン	デザイン業界での企画提案に必要なコンテンツツールについて学び、実際の企画を行い、プレゼンテーションまでのデザイナーの役割を学ぶ。	3・通	88				○	○				○
44	○		卒業制作	3年間の集大成として作品制作を行い、完成後はプレゼンテーションと講評会を実施する。	3・後	262				○	○		○		
45	○		就職実務Ⅱ	就職が円滑に進められる様に、作品集制作を含め就職対しての意識付けを行う。また、プレゼンや時事を意識する為に新聞を活用したディスカッションの実施も行う。	3・前	22		○			○		○		
合計				45科目	2964単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法			授業期間等	
・出席率80%以上 ・授業課題の提出 ・卒業制作、修了制作の提出	1 学年の学期区分		2期	
	1 学期の授業期間		18週	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。